

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4271200679		
法人名	特定非営利活動法人 ハッピーネス福祉会		
事業所名	グループホーム琴の海		
所在地	〒859-3808 長崎県東彼杵郡東彼杵町蔵本郷884-1 (電話) 0957-47-0140		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】 (20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	1 ~ 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000+実費 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	- 円	

(4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	- 名
年齢	平均 84.2 歳	最低 74 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎神経医療センター 鈴木病院 村岡歯科医院 山川医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅街の中にある、自然な木の味わいをいかした木造りの建物は、訪れる人に穏やかな感じを与えます。ホーム内は写真や、季節に応じた装飾が施され明るく清潔な空間が保たれています。また、中庭があり季節に応じて木々の緑を楽しむことができます。ご利用者は、日当たりの良いリビングや、それぞれお気に入りの場所で、読書をしたりテレビを見たりしながらゆったりと過ごされています。スタッフ間のコミュニケーションも良く、理念にある「共に喜び、共に悲しむ」の実現を目指し、ご利用者の笑顔を第一に考え、きびきびとした動作のなかにも丁寧でやわらかな対応を心がけておられる様子がうかがえました。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善に向けた計画的な取り組みを期待します。 前回の評価結果を踏まえ、幾つかの改善活動が見受けられましたが、計画的な活動に至っているとは言い難い状況です。改善計画により優先順位を定め取り組まれることを期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) スタッフ全員による自己評価への関わりが求められます。 今回の自己評価は、全スタッフでの取り組みには至っておりません。現状の課題の共有化のためにも、全スタッフの関わりの中での自己評価を期待します。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議開催への取り組みが求められます。 ご利用者の入退居や体調の悪いご利用者の支援で時間がとれず、今年度の会議は開催されていません。地域やご利用者等と協力しあう取り組みの一つとして会議開催と継続を期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の意見を大切にする姿勢がうかがえます。 面会時などにご家族との情報交換を心がけられています。ご利用者個人ごとの様子と合わせて預り金の収支報告書も毎月出されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との関わりを積極的に行われています。 地域行事に応援スタッフとして参加された実績が確認でき、来年は企画段階から関わっていきたいとのことです。訪問日にも生花を活けにボランティアの方が来られるなど、日頃から地域との交流が行われています。

(別紙2-2)

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム長自身の在宅介護経験から出発されたホームであり、「共に喜び、共に悲しむ」というご利用者の思いを第一に考えた理念を掲げ、実践に向けた取り組みを行われています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示され、2週間に1度のカンファレンスの中でも理念に基づくご利用者個別の支援の検討が行われています。理念はスタッフに周知され、理念の実現に向けてスタッフが努力されている姿勢がうかがえます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会の会場設営、ビデオ撮影などホーム長が企画運営サイドの立場から関わりをもたれるなど積極的な活動が見受けられます。地域行事には、地域連携の一端となるという考えのもと、積極的に参加されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価はホーム長のみで実施されています。前回の評価結果については、スタッフに回覧され幾つかの改善事例も見受けられますが、計画的な改善とは言い難い状況にあります。	○	自己評価、外部評価ともに事業所全体で取り組み、結果を分析することによって課題の共有化が図れます。今後は全てのスタッフで自己評価に取り組まれることを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の入退居や状態の悪化など様々な要因で、会議開催の計画段取りをする余裕がなかったとのことで、今年度は1度も開催されていない状況です。	○	今後は運営推進会議の開催計画を策定し、サービス向上の一環とされることを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へ月に1度以上は訪問し、情報交換に努められています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ご利用者の家族へ様子をお知らせする便りを出されており、それに合わせて預り金の収支報告もなされています。来訪されるご家族とは直接情報交換や意見の聴取などを心掛けられています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見は大事にし、運営に反映させたいとするホーム長の言葉どおり、来所されるご家族には丁寧に接され、ご家族からは気軽に訪ねて行きやすいとの感想も聞かれます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム長は、スタッフが働きやすい環境作りに努められ、スタッフ間のコミュニケーションが良好であることがヒアリングでも確認できました。そのような環境の中で職員の定着率は良好であり、ご利用者との馴染みの関係構築への配慮として評価できます。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフがそれぞれ、目標を掲げ自己評価による振り返りや他者評価の機会も設けられています。スタッフに会議の司会や書記を担当させるなど、直接サービス以外の面においてもスタッフを育てる取り組みがあります。研修案内が積極的に情報提供され、研修参加後は会議で情報共有が図られています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長が連絡協議会に参加し、その内容を持ち帰ることにより情報の共有はありますが、他の事業所のスタッフと直接交流する機会は少ないとのことです。	○	グループホーム間の相互見学など積極的な取り組みにより、質の向上やスタッフのスキルアップにつなげる活動もご検討下さい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームで安心して過ごしていただくために何をご利用者が必要としておられるのかを、常に考え、模索しておられます。新規利用者に対しても様々な言葉かけや支援により、段々と馴染んでこられた様子をうかがうことができました。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフはご利用者に喜んでいただくことを第一に考えているとのことです。ご利用者が希望されることがホーム内で全て叶うわけはありませんが、その際はスタッフが一緒に別のやり方を見つけ出すようにされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの特徴を把握するよう努め、素振りや表情にも気を配り、その方の癖や生活歴なども把握されています。思いを把握し難いご利用者には「～しましょう」との誘いになりがちですが、ご利用者の反応を確認しながら対応されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの情報及び日々の気づきを基にカンファレンスで話し合わせ、介護計画が策定されています。ご家族による介護計画書への同意についても確認できます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度介護計画の見直しが行われています。前回の外部評価結果をもとに、介護計画に変更があった場合には計画書に追記がなされ、口頭での報告と合わせて更なる共有が図られていました。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物、通院介助、新聞の購読などの支援を柔軟に行われています。外出の支援はご利用者の希望にできるだけ添えるよう、配慮されているようです。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度かかりつけ医を受診し、ご利用者の状態によっては往診をしてもらっていることです。受診結果のご家族への報告は、来訪時や電話、毎月のたよりなどを用いてお知らせされています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	お一人のご利用者の看取りを経験され、看取りの課題改善に向けてホームの枠を超えた取り組みが行われています。医療・ホーム・家族のネットワークの重要性を再認識され、ご家族への説明や意思確認などにも積極的に取り組まれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規程やマニュアルなどの整備がまだなされていません。日頃の、ご利用者への声かけや対応には尊厳を守ろうとする配慮がうかがわれます。	○	個人情報の保護についてはご家族の関心が大きいことが考えられます。規程の整備やスタッフへの周知がご家族の安心感にもつながります。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを大切にし、時間で急かすような声かけは行わず、一人ひとりにじっくりと対応されています。言葉での意思表示が困難な方に対しては日頃から行動を注意深く観察されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士によりバランス面にも配慮され、中庭の楓の葉を彩りのため皿に飾るなど、目で見ても食欲が湧くような工夫をされています。食器の後片付けもご利用者の状態に応じて、協働でなされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日が設定されていますが、夏はシャワーなど、希望に応じて柔軟な対応が可能とのことです。また、お一人ずつゆっくり入浴いただくように心掛けられています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や日常の様子から、ご利用者の得意なこと、できることを活かした役割分担を考えられ、片付けや洗濯物たたみなどを行っていただいているとのことです。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や車椅子での外出が行われています。一人での散歩を希望される方にはGPS機能付きの器具を身に付けてもらい希望に沿った対応を心掛けられています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人で外に出られるご利用者もおられますが日中の施錠はせず、見守りをすることで対応されています。また、玄関にはセンサーが設置されていますが、音量には配慮がうかがえます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今期は昼間の設定での火災訓練を1度行ったということです。地域への協力依頼も行われ、備蓄も缶詰め類が1～2日分確保されているとのことです。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者ごとに食事の量や形態に配慮されるとともに、摂取量も記録されています。また水分摂取についても同様に記録をとられ健康管理の目安とされています。献立はスタッフの中の栄養士により作成されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは広々としており中庭が設けられ日当たりも良好です。開放感がありゆったりと過ごすことができます。浴室、トイレでは臭いは感じられず清潔感があります。壁にはご利用者の写真などが飾られ、スタッフ手作りのカレンダーからは季節を感じることができます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品に特に制限はなく、居室のレイアウトもご利用者とスタッフが相談をして模様替えなどを行うということです。棚やテレビなど馴染みの品の持ち込みが確認できました。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。